

議会改革推進会議「検討部会」会議録

令和7年5月19日

亀山市議会

議会改革推進会議「検討部会」会議録

- 1 開催日時 令和7年5月19日（月） 午後1時00分～午後2時30分
- 2 開催場所 第1・2・3委員会室
- 3 出席会員 部 会 長 福 沢 美由紀
副 部 会 長 今 岡 翔 平
部 会 員 古 田 吉 昭 櫻 木 善 仁 森 美和子
鈴 木 達 夫
会 長 岡 本 公 秀
副 会 長 森 英 之
- 4 欠席会員 なし
- 5 事務局 議会事務局長 大 泉 明 彦 議事調査課長 新 山 さおり
書 記 鳥 居 智 子 書 記 山 北 康 仁
- 6 案 件 1. 第98回検討部会の確認事項について
2. 議会改革白書2025への掲載内容の確認について
3. 議題
（1）子ども議会の実施について（検討課題47）
4. その他
- 7 経 過 次のとおり

午後1時00分 開会

○部会長（福沢美由紀君） ただいまから第99回議会改革推進会議検討部会を開会いたします。

それではまず、事項第1. 第98回検討部会の確認事項について、カルテへ追記しましたのでご確認いただきたいと思います。

内容について、事務局より説明をお願いします。

鳥居グループリーダー、お願いします。

○議会事務局員（鳥居智子君） それでは、資料1、カルテの4ページ目をご覧ください。

令和7年度亀山市中学生議会実施要領（案）、学校説明会等のスケジュールや資料等について第98回検討部会でご協議いただき、そして本日の第43回議会改革推進会議において内容を確認していました。

追記については以上でございます。

○部会長（福沢美由紀君） 説明は終わりました。

カルテへの追記に関して、何かありましたら発言をお願いします。

いいですね。

（発言する者なし）

○部会長（福沢美由紀君） ないようでしたら、カルテはこのように更新いたします。

次に、事項2. 議会改革白書2025への掲載内容の確認についてでございますが、今回は掲載する事項はありませんでした。

次に、事項3. 議題に入ります。

（1）子ども議会の実施について（検討課題47）でございます。

まず学校説明会、役割分担及びタイムスケジュールの修正を行いましたので、事務局から説明をお願いします。

鳥居グループリーダー。

○議会事務局員（鳥居智子君） それでは、資料2-1をご覧ください。

この前の5月12日の検討部会におきまして、学校説明会の役割分担及びタイムスケジュールを資料としてご説明させていただきました。その後、再度、最終的な確認を学校にしましたところ、修正がありましたのでご説明申し上げます。

まず5月29日、亀山中学校の学校説明会ですが、体育祭の練習のため、3限に入つておりました6組の説明を6限のほうに変更になりました。3限目、4限目がなしになりますて、昼から、午後、5限目、6限目で、5限目で3組、4組、6限目で6組という時間割に変更いたしました。

次に、27日の中部中学校に変更はございません。

次に、5月23日金曜日ですが、関中学校の学校説明会において、説明議員が福沢部会長、今岡副部会長、鈴木委員の3名とさせていただいておりましたけれども、こちらを福沢部会長、今岡副部会長の2名に変更をさせていただきました。

申し訳ありません、亀山中学校のほうなんですけれども、以前は50分の授業になっておりましたけれども、先ほども説明いたしましたとおり、体育祭の練習のため短縮授業となっておりまして、45分の授業になっております。付け加えて説明させていただきます。

修正については以上になります。

○部会長（福沢美由紀君） 以上で説明は終わりました。

学校説明会及びタイムスケジュールの修正について、何か確認やご意見がありましたらお願ひします。

ちょっと短縮授業というのがあれですね、結構説明を増やしたのに時間が減るということで、どちら辺をはしょるかというのをまたもう一遍ちょっと検討させてもらわなあかんかもしれませんので、お含みおきいただきたいなと思います。

それでは、よろしいですか。

（発言する者なし）

○部会長（福沢美由紀君） ないようでしたら、次に通告書作成の関わり方やスケジュールについて、今岡副部会長を中心に、櫻木委員と協議をしながら案を作成していただきましたので、今岡副部会長から説明をお願いいたします。

今岡副部会長。

○副部会長（今岡翔平君） それでは、資料2-2をご覧ください。

中学生議会・質問フォローアップ案というような資料を作成させていただきました。

1番から5番を書いているんですけども、これは大前提としまして、こちらはこれができますけれども、それがいいですかというのを学校のほうに選んでもらうつもりで上げております。なので、全てやるとは限らないんですけども、一応思いつく案というのを上げさせていただきました。

では、順に説明させていただきます。

1つ目は、各学校へ議員が行く。これは空き教室などでフォローするという案なんですけれども、議員が待っていて、時間内であれば好きな時間に来てもよいという方式か、あるいは時間を決めて設定をすると。学校にこれは意向を聞きたいところですが、できるだけたくさんの議員に来てほしいのか、または少ないほうがよいのかというところも決めてもらいます。

手法としては、「亀山について思うこと」をテーマに、ファシリテーション方式で考えや意見を引き出していく。付箋に書き出し、ホワイトボードなどに貼り付けていく、その中で何が一番聞きたいことなのかテーマを決めていく。意見が出にくいうようであれば、議員のほうから考えを導くような問い合わせを行うということですね。ただ、アイデア出しの段階でなくとも、このフォローというのは、この1番のフォローの方法というのは可能だと思います。

2番としては、3校で交流をする機会をつくる。3校の中学生議員を一度に集めて意見を出し合う、サロン方式で開催する。開催するのであれば、場所は公共施設や市役所を考えています。意見出しの段階でなくても、要望があれば設定をしたいです。

手法としては、イベントのような形式で、他の学校の生徒とも交流しながら考えていく。

3つ目は、各中学生議員とアポを取って各学校へ行く。学校で待ち合わせをして個別に対応をするという案ですね。

4つ目は、オンラインの個別相談。中学生議員が希望する時間に複数の議員で対応します。オンラインを実施する際には、先生にアドレスを送り、実施していることをお知らせし、参加も可能とします。中学生が使用しているため、グーグルミートを使ってオンラインでやり取りをしたいと思います。

5番目としては、個別にアポを設定。場所や時間帯を学校や日中に限定せずに議員とアポイントを設定します。複数の議員で対応したいと思います。先生にアポと場所だけ報告をしますが、同席をい

ただいても構わないものとします。

手法としては、各中学生議員の予定に合わせて対応するというような形になります。

これらの前段といたしまして、学校説明会のグループワーク、1部と2部の間でグループワークを行う時間なんですけれども、このグループワークの時間では、話し合いを3分、まとめる時間を2分、発表を1分でしていただきたいと思うんですけれども、今回はできたらできるだけ実際に中学生議会でしていただく質問、一般質問につなげたいなと思いまして、学校説明会のグループワークで出た意見や考え方は、選出された中学生議員を通じて、クラス全員の意見として質問及び提言につなげていくというような形にしたいと思います。以上です。

○部会長（福沢美由紀君） いろんな案を考えていきました。

1つ、すみません、サロン方式という言葉の説明をお願いいたします。

お願いします。今岡副部会長。

○副部会長（今岡翔平君） サロン方式というのは、上に書いてある手法の、付箋に書き出してホワイトボードなどに貼り付けていく、その中で何が一番聞きたいなのか、テーマを決めていくというような手法になります。亀山で活動しているファシリテーターズという担い手研修の人たちがいるんですけども、その方たちがこういう方式をよく取っているんですけども、その会のことをサロンと呼んでいるので、同じようにサロンという言葉を使わせていただきました。以上です。

○部会長（福沢美由紀君） それでは、皆さんからのご意見を賜りたいと思います。

初めてのことですので、前の話し合いの中では、まず1つだけ、できるだけみんなでまずは行こうというような言い方をしていたと思うんですね。マンツーマンというのは、最終的にはそういうことがあるのかも分からぬんだけど、一番初めはできるだけたくさんで行こうというようなことを言っていたと思うんですね。そうじゃなかつたですか。ただ、みんなで行けるような日程調整ができるかどうかが分かりません。みんなが行ける日を探しておったら最初の学校と後の学校が3週間も間が空いていたということでは、やっぱりスタートに差が出て、考える時間も少なくなるので、今のところ議員さんがどんな子か、部活をやっておるのかどうかとかは分かりませんので、いろんな可能性を想定しながらお話ししてもらうしかないんですけれども。

今回初めての方もいらっしゃるので、昨年のワークショップのやり方というのはどんなんやったかというのをちょっと改めて申し上げますけれども、説明資料の真ん中ぐらいで班にみんな、さっと分かれてもらって、ホワイトボードを出してもらって、亀山のええところ、みんなのええところを班で考えてということで、みんなが意見を出して、書いてもらって、発表してもらったんです。それで、それを経験した上で、お話ししやすい人、声が出しやすい人やらそうじやない人やら、声が出ているのをきちんとキャッチできる人やらそうじやない人やら、いろんなパターンがあるなというのは感じました。そういうことも多分踏まえて、サロン方式というのは、平等に付箋が配られて、同じテーマで一人一人が自分の、亀山のええところは何かなど、そういうことを主体的に書いてもらうという時間を平等に与えられるということになるんですよね。だから、恥ずかしがりの人でもしゃべりの人でも同じように意見が出せるということで採用してもらったということだと思うんですけども、このやり方を学校説明会でもやり、どんな形が実現するのか分かりませんけれども、議員さんが決まってからの、案を出してもらったりすることにも同じように使い、イベントでも使いということで、これでいろいろ掘り起こしていくというか、感性を刺激していくというか、そういうことなんですね。

森委員。

○部会員（森 美和子君） 確認ですけど、今、副部会長が説明していただいた5案は、これは学校が選んでいただくということでいいんですよね。

○部会長（福沢美由紀君） 今岡副部会長。

○副部会長（今岡翔平君） そのとおりです。

○部会長（福沢美由紀君） 森委員。

○部会員（森 美和子君） そういうことやね。

学校が選ぶので、何や言うことはないんですけど、すごくいろんなことを考えていただいてありがたいなと思うんですけど、1案の場合、好きな時間に来てもいいということになると、生徒さんの空いている時間がその子によっていろいろ違うので、たくさん来られる子とあんまり来られへん子との差ができてしまうんじゃないかなという懸念はあるかなというのを、少し説明を聞きながら1点感じたなと思っています。

それから、最後のグループワークも非常にいいなと思うんですけど、先ほど報告があったように、短縮授業のことが少し懸念材料として、本来はこういった時間をしっかり取りたいなというのは思うんですけど、ちょっと懸念材料かなあとと思いました。

○部会長（福沢美由紀君） 今岡副部会長。

○副部会長（今岡翔平君） ありがとうございます。

最初の時間についてなんですけれども、いろいろ考え方はあるよねということで話はさせてもらったんですけども、基本的な姿勢としては、見てもらいたいとか、質問を詰めたい、練り上げたいという要望とか気持ちがある分については、できるだけその気持ちに応えられるような体制でいきたいかなというような、ですので、もっと見てもらいたい、もっとやりたいという子がすごく時間が増えてしまっても、そこは仕方がないというふうな考え方で今回は案を上げさせていただいています。

○部会長（福沢美由紀君） 学校の先生にここから選んでもらうということも案なので、皆さん思うところもきっちとここでしっかりと練り上げた上で、どれを学校に提示する案にするのかということも含めて、これ全部でいいのか、また違う案が皆さんにあるのか、いろいろ出してもらうといいと思うんですけど。

森委員。

○部会員（森 美和子君） 最後のグループワークの件なんですけど、多分前回、去年も亀山のいいところを出してみてと言ってもなかなか出てこなかつたので、もしできることなら、事前にこういうことを、グループワークをするよぐらいの投げかけを生徒さんにしてもらっておいて、担任の先生なりに、それで臨んでもらったほうがいいのかなと、先ほどの短縮事業に関していえば、と思いました。

○部会長（福沢美由紀君） 去年の1日目は本当に、図らずしてというか、急に始まりましたんで、言っておくことはできなかったという状況だったですよね。もう、やっぱりそうしようかといってやっちゃったのでね。それはご協力はいただけるのかなあと思いますけど、どうなんですか。

今岡副部会長。

○副部会長（今岡翔平君） グループワークの進め方なんですけども、これは担い手研修のサロンとかも同じ感じで進んでいくんですけども、亀山について思うことを、もう何でもいいから上げてくださいというような、投げかけていきたいんですけれども。

亀山市について思うことを何でもいいという投げかけでさせていただきたいんですけども、その辺りについてです。

扱い手研修なんかでそういう言い回しについても僕ら勉強したりしているんですけど、何でもいいというとすごく意見が出しやすくなるというか、自分が言っておることとか、言うこととか考えておることって合っておるかな、合っていないかななどいう前提が結構、特に子どもたちってあるかなと思ったりしているんですけど、もう別に亀山市に思うことやったら何でもいいよということで、意見が上げやすい。ネガティブなこととかちょっと否定的なことも出てくると思ったんですけども、やっぱりこの授業の中から最終的な発表につなげていきたいということで、そういう意見が出るのはやっぱり大事にしたいということで、できれば、案を考えた立場としては、そういう聞き方でグループワークを進めていきたいんですけども、その辺りの意見についても伺えたらなと思います。

○部会長（福沢美由紀君） 森委員。

○部会員（森 美和子君） 何か、何でもいいと言われると私なんかは出にくいかなと思うんですけど、いや、私もファシリテーターの研修を受けていないので分かんないですけど、それで意見が出やすくなるとおっしゃるんやったら一回やってみたらいいんかなと思います。ちょっと私やったら出えへんかなと思ってしまいました。

○部会長（福沢美由紀君） 櫻木委員。

○部会員（櫻木善仁君） ちょっと漠然的やと難しいんで、もしかしたら、この1番のところに書いてある例えばというところがちょっとあるんですけど、例えば亀山のいいなと思うこと、変えてほしいと思うこと、こうなつたらいいなと思うことなどなどとかといって、全般やけど、例えばこんなことやにというのを3つぐらい示して、などなどといって提示すると、少しは幅が狭くなるので考えやすいかなというのがあつて、ここでも一応考えたんですけど、それを提示しながらやっていくと少し入りやすいかなとは思いますけど。

○部会長（福沢美由紀君） 森委員。

○部会員（森 美和子君） ただ、時間がないので、非常に限られた時間の中で、しっかり子どもたちが考える時間があればいいけど、これも含めて最初に先生からアクションしてもらっておくんやつたら分かりますけど、その場において、何でもいいのでといって後から亀山のいいなと思うとかと言われても、なかなか、どうなんだろう、大丈夫なのかなとちょっと心配はあります。

○部会長（福沢美由紀君） 櫻木委員。

○部会員（櫻木善仁君） 1回目が今週の金曜日になるので、ちょっと事前に言うことがもう難しいかなというふうなところがあるので、その場でさばくというのが一番ええかなと思いますけど。

○部会長（福沢美由紀君） 例えばいいなと思うと、前も言いましたよね、好きな場所でもいいよと、好きなものでもいいよ、何でもいいよみたいな言い方をぽつぽつ言いながらやってもらったと思うんですけど、ただ、みそ焼きうどんがいいという人もおれば、おじいちゃん、おばあちゃんがいいという人もおれば、人が優しいとか、本当にいろんな種類の意見が出たなあと思うんですけども、グループによっては本当に全然出ないグループもあったりもしました。

その例えばみたいな問い合わせの例をある程度いっぱい上げてもらっておくというのは、携わる私たちが、櫻木さんも今岡さんもいないときにせんならんかも分かりませんので、それはやっぱりそういう投げかけ文、投げかけのヒントというのをみんな同じだけの情報を持っておくということは大事か

なあと思いますし、書いてねというときに先に全部言っておくのもありだと思いますし、今はだから学校説明会の現場のことを皆さん想定して今しゃべってもらうと思うんですけど、こういうサロンとして時間をかけてするんであれば、一回ばあっと出た意見で、人の意見を見て、ああ、こんなこともあったとまた思い出して第2弾で書くというのもあるのかなあとは思うんですけど、もう一発勝負なんですね、こういう、それで、しかも時間に、何か追われているということが大事らしいんですよ。それで、いっぱい出すと。というと、何か自分で思ってもいないものが出てきたりするなんか何か分かりませんけど、とにかくいっぱい出すということがとても大事な作業らしいので、例えばのところを、どうですか、ほかに、今これ3つありますけれども、もうちょっともらえたりもしますか。

今しゃべっておるのは、本当に学校説明会でのワンシーンのこと、特に今ちょっとそっちへ話が行ってしまっているんですけれども、一番近いので。

それはホワイトボードを使うわけですか、模造紙を使うわけですか。

今岡副部会長。

○副部会長（今岡翔平君）付箋とマジックとホワイトボードを使ってやろうと思っています。

○部会長（福沢美由紀君）ホワイトボードでいい。あのちっこいホワイトボードでいいんですか。

今岡副部会長。

○副部会長（今岡翔平君）それでいいと思います。

○部会長（福沢美由紀君）亀山のいいなと思うこと、ところ、変えてほしいと思うこと、こうなつたらいいなと思うこと、ここのヒント集をちょっと、もうこれで十分ですか。

今岡副部会長。

○副部会長（今岡翔平君）いや、子どもたちから意見が出る、要はいっぱい付箋が貼られるというのが一番大事なんで、それにはやっぱりグループワークをやるほうの立場がよく分かっておるというか、何か自信を持ってできるというのが大事やと思いますんで、もし任せていただけるんであれば、グループワークの内容部分の台本といいますか、もうそういうふうに、何分ぐらいで進めてくださいみたいなフォーマットを決めて、もう皆さんにはそれを読んでもらったら進めてもらえるという形にしようかなと思うんですけれども。

○部会長（福沢美由紀君）できたら、本当に初めてなんで、一遍このメンバーでやってみてもええぐらいかなと思うんですけど、そこまではしなくてもいい。つくっていただけるんならいけそうですかね。

取りあえず、それで何回も何回も体験しますんで、各クラスに行ってね。

（「関中で勉強させてもらったら」の声あり）

○部会長（福沢美由紀君）そうですね。あの広いところでもちゃんと班に分かれてやってもらいますんで。そうやな、関中の会場でもしますね。しますよね。

今岡副部会長。

○副部会長（今岡翔平君）はい。関でもります、同じことを。

○部会長（福沢美由紀君）りますね。班分けしますもんね。

みんなが書くほどのマジックとか、物の準備等はどうしますか。もう持つておいてもらう。

マジックがいいんですかね、やっぱり、鉛筆やなくて。どうなんですかね。

今岡副部会長。

○副部会長（今岡翔平君） 付箋を貼ったときにやっぱり何を書いたかというのがほかの人に見えたほうがいいので。

○部会長（福沢美由紀君） なるほど。

今岡副部会長。

○副部会長（今岡翔平君） ペンは、事務局にあるものプラスアルファで用意できるそうなので。

○部会長（福沢美由紀君） ただ、これは班に1つあればいいというもんじゃないんですよね。一人一人がばあっと書くわけですよね、付箋に。みんなが付箋を配ってもらうて、一人一人が立ち向かうわけですね、このお題に。そうすると、全員の分が要りますので、そんなにないでしょう、あるんですか。

どうぞ。新山課長。

○議事調査課長（新山さおり君） 同時開催がございますので、その分を考えますと今、事務局の中に本数はございませんが、それを購入して用意をするか、もしくはちょっと学校のほうで子どもさんの今、状況を確認させていただいて、よく中学生ですと、サインペンを1本ですかね、ネームペンというのを持ってくるというので、筆箱に入っている学校もあるかと思いますが、亀山のほうの学校が、確認しないと分からないので、そこも含めて確認した上で、必要であれば事務局で用意するという形になろうかなと考えております。

○部会長（福沢美由紀君） 同時開催は2クラスでしたっけ、3クラスもあるんやったっけ。3クラスもあんのやったな。

じゃあ、ちょっと調査をかけていただいて。

森委員。

○部会員（森 美和子君） ホワイトボードは向こうにあるんですか、学校に。

○部会長（福沢美由紀君） ホワイトボードはもうみんな学校に必ず、班活動はいつもしているので、班に分かれるのもめっちゃ早いですし、戻るのもめっちゃ早いので、慣れておられるんですけども、全員がペンを取るということはやっていないと思うんですよね。何か1人書記みたいな子がおって、誰かがしゃべったのを書いておるという感じでしたんで、それについては調べて、買うしかないし、お願ひするならお願ひするしかないので、付箋ぐらいは買うてもらいますやな。

ホワイトボードがちっちゃいので、あんまり、こんなもんでしたよね、ホワイトボード。

（「そうです」の声あり）

○部会長（福沢美由紀君） ですから、あんまりでつかいとね。

それで、こういう問い合わせなんかももうちょっとつくってもらって、どんなふうにしたらいいかというシナリオみたいなのも含めて、また練り上げていただくということで、皆さんよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○部会長（福沢美由紀君） 大体イメージはしていただきましたということで、改めまして、通告に関わったりする方法について、この案についてまた、学校説明会以外のことでの一般質問への関わりという目でここを見ていただきたいんですけど。

これはマンツーマンも含めるんですよね。マンツーマンの案もあればグループでいくというのもあれば、いろいろなんですね。

今岡副部会長。

○副部会長（今岡翔平君） できれば議員のほうは複数で対応したいなあと思いまして、例えば3番とかの場合に、中学生1人に対して議員が2人とかというのは想定できるのかなと思います。

○部会長（福沢美由紀君） 森委員。

○部会員（森 美和子君） 2番は非常にいいなあと思うんですけど、学校負担にならへんのかなと物すごく思う。

○部会長（福沢美由紀君） 今岡副部会長。

○副部会長（今岡翔平君） これは、現実問題、3校から希望がないと多分できないかなと思います。

○部会長（福沢美由紀君） 先生方も負担がといったことをもう一言目には言っておられるので、あれもこれもそれもしてくれということにはならない可能性はあるのかなあとは思います。

今岡副部会長。

○副部会長（今岡翔平君） 5番も一応選択肢のつもりで、あんまり学校としてはそんなに望ましくないかもなというふうな思いで上げてはいるんですけど。

○部会長（福沢美由紀君） 皆さんの中でこれだけはちょっと困るとかというのがあるんであれば、言うといつもらわんと、これは動き出しまりますと止められませんので、一応こういうことで、いいでしょうか。

(発言する者なし)

○部会長（福沢美由紀君） もう結構日は迫っていますけど、ここを分かっていただくために、サロン方式を学校の先生方にも分かっていただかんとあかんかなあと思うので、ちょっとこんなふうにしますんやわというシナリオを早くいただいて、それも併せてちょっとご説明させてもらって、学校でこういうことをしたいんですけど、学校説明会でもこの手法は使うんですということで、ご一緒に説明させてもらえるとありがたいのかなあと思うんですけど。

(「もう分かっているんと違う」の声あり)

○部会長（福沢美由紀君） やられているんでしょうか、学校では。

鈴木委員。

○部会員（鈴木達夫君） やっていると思うよ。

○部会長（福沢美由紀君） 今岡副部会長。

○副部会長（今岡翔平君） 学校向け、議員向けの概要というか、マニュアルというか、シナリオについては、今日、明日ぐらいでもうつくれるかなと思います。

○部会長（福沢美由紀君） ありがとうございます。よろしくお願ひをいたします。

皆さんの中からどうですか。ほかには、懸念とかあるんやったらもう、できそうですかということなんですけど。

一つ一つの意味は、もう理解、1番から5番までの。

森委員。

○部会員（森 美和子君） これは学校側からしたら、じゃあ1番でお願いしますとか、2番でお願いしますとかという回答をもらうんですかね。それとも、これを何か組み合わせて、これとこういう形にもしてと学校から言われて、それをのんでいくという形になるんですかね。

○部会長（福沢美由紀君） いかようにもできると思うんですけど、例えば私たちがこれを見て、こ

れとこれがいいんじゃないのみたいなところで、実はこういう案があるって、A案はこれなんですけどみたいなので言うてしまうのも、でも、どうぞ学校のほうでもご検討くださいといってこの全部の案をお示ししながらというのもありなのかもしれませんし、それはいかようにもなるんかなと思いますけど、一応副部会長を中心にしてもらったのは、このまんまぽんと学校へ投げて、学校で選んでもらうということではあると思いますけど。

櫻木委員。

○部会員（櫻木善仁君） 学校の回答次第なんんですけど、例えば1と4なんかを組み合わせてくるかも分からぬ。例えば一番最初だけ打合せを顔を合わせながらやっておいて、残り、不足分を、もしかしたら時間の関係でネットミーティングにしてくれというようなところがあるかもしれません。それはちょっと、そういう形になるかもというのは予測ですけど。

○部会長（福沢美由紀君） いいでしょうか。この1番の、要するに一番の知恵出しあい、何を質問したいかもまだちょっとばやつとしている方に、ああ、これがあったみたいなことで見つけてもらったりするきっかけやと、一番初めにしたいなという、このサロン方式でのやつを。それもできるだけ、好きなときに好きな人が来るんじゃなくて、できるだけ議員さんになる人がみんなおってもらうて、みんなでぎやかにするという機会を必ず、できたら平等にあったほうがいいような気はするんですけど、一番初めの知恵出しの部分なんだけれどね。

森委員。

○部会員（森 美和子君） すみません、これはグループワークを説明会のときにして、出た意見を、それが1つは基礎になっていくということですか、資料になっていくということですね。そうしないと、たった6人、3人から6人の生徒さんだけでの意見というよりも、幅広い意見をということのほうが必要なんかな。そうすると、このグループワークが物すごく大事になるんじゃないかなと思うので、何かその場でのあれというのがちょっと、本当にいいのかなと思っちゃった。

でも、説明のやつをつくってくれるというので、それは。

○部会長（福沢美由紀君） その場というのは、学校説明会でということ。

学校説明会のワークショップの在り方。

森委員。

○部会員（森 美和子君） その前に先生から投げかけてもらうたほうがええのかなと思ったんやけど。

○部会長（福沢美由紀君） 一遍、10分間でいいですかね、休憩させていただいて、クールダウンしていただいて、もう一遍。

休憩に入ります。

午後1時40分 休憩

午後2時09分 再開

○部会長（福沢美由紀君） 休憩を閉じ、会議を再開いたします。

通告書作成の関わり方やスケジュールについて、今ちょっと検討、皆さんに案を見てもらっていますが、いろんな案があり過ぎて、それが負担じゃないかという声もあるし、いろいろ選んでもらったほうがいいんじゃないかという意見もありますので、改めて皆さんにちょっとまたお伺いしたいんですけど、どうですかね。

鈴木委員。

○部会員（鈴木達夫君） 通告書、あるいは質問の云々の前に、今、せっかくビデオというか、録画を見せていただいた中で、2つくらい意見があるんですけども、今回、中学生議員になれなかつた、ならない方にとっては、ああいうグループワークが大切な、議会とか、意見を述べる場の大切な時間であると、発表したりね。これが物すごい大切な時間だなあということと、先ほど副部会長が言ったように、グループワークからたくさん意見が出て、その中にはたくさんのヒントがあるから、自分の個別の質問につなげる部分と、もう一つは、そのグループワークの中に出でていないことであっても、もっと好きなようにも、亀山に関して個人の議員が思っていることを提案したり質問できるという、その辺の枠組みは、子どもたちに、このグループワークを通じていろんなヒントを拾って、質問につなげてくれる方もいれば、あるいは自分が昔から思っている、今強く思っていることも主張できる、質問できるという場ですよみたいな説明を今岡さんにぜひしてもらいたいんですよ、僕的にはね。合っているかどうか分からんけど。

○部会長（福沢美由紀君） 今、休憩時間中に昨年の学校説明会のビデオを、動画を見ていただいたんですけども、みんなが考えて、意見を出して発表し合っている姿を見ていただきました。マジックで書いていますが、今回取り組む方法と少しだけは違いますけど、同じようにグループワークをして、皆さんの意見をもらって、議員としては質問につなげてもらったり、それをヒントにまた新しく考えてもらったりということもあるんではないかと、つなげていくという、こういう大事なワークショップだよということを最初の段階でぜひとも言うてほしいという意味でよろしいですか。

鈴木委員。

○部会員（鈴木達夫君） そういうことですね。

○部会長（福沢美由紀君） そのとおりですね。最初の授業のときにそれも言うてみましょうということですね。

何となく、どうですかね。質問フォローアップの第1回目をどういうふうにするかということが大事かなあと思うんですけども。

森委員。

○部会員（森 美和子君） 生徒さんの議員が決まった段階で、一度こちら側の議員との顔合わせを含めて、全員で出た資料もそこに提示しながら、もう一度グループワークをするという考え方でいいんじゃないかなと。

あとは、言ったら、関やったら関中で、じゃあどんな質問をしようかということになればいいし、個別に、自分はこれだけは絶対言いたいということは言っていただいたらいいし、そこから決めていかれるような方法でいいんじゃないかなと思います。

○部会長（福沢美由紀君） そうですね。今、顔合わせも含めて、各学校、皆さん寄つていただいて、議員が、こちらも行って、先ほどのようなワークショップをサロン方式でさらにやっていくということですね。

こういう提案ですけど、そういう形でまずはよろしいですか。まずこのご提案をするということで。
櫻木委員。

○部会員（櫻木善仁君） これは、例えば今回、僕らが想定しているのは、水曜日というのを結構想定をしているんやけど、そうなると、やっぱり第1回目というのはもう一斉に行かないと、1週1週

遅れていくと、最初からいくともう本当に3週目になってしまうので、やっぱりできたら分散し、今からの回答次第ですけど、それか、例えば月水金と分かれてもらえば1週間の中でできますけど、それがもし同日に重なった場合は、もう分かれていくということを決めておいたほうがえんじやないかな。そこでもうみんなが行くとなると全部ずれてくるので、そうすると後ろの人たちって時間がなくなってしまうので、そこもちょっと考慮したほうがええと思う。

○部会長（福沢美由紀君） そうですね。可能であれば、例えば同じ週の中で違う曜日で行けたらみんなが顔合わせできますが、それが先方の都合で不可能なのであれば、私たちが分かれてでも、1週目に各学校全部、最初のサロンができるようにしていこうという確認でよろしいですか。

（「はい」の声あり）

○部会長（福沢美由紀君） それでは、まずそういう方向で学校のほうにご提案をすると、こうしたいんですということで申し上げるということ。その後の関わり方については、こういういろいろな方法がありますということでお示しをしておく、どうしますか。3校の交流機会というのも一応提案の中にありますけれども。

今岡副部会長。

○副部会長（今岡翔平君） ちょっと皆さんの話を聞いていると、あまり学校に考えてもらうとか、考えてもらうということが結構負担になると思うんで、スタートはさっき森委員とか部会長が言われているような差が出ない時間のタイミングでサロンを行って、後の質問の詰め方については、個別に学校に行くなり、議員を呼んでいただくなり、オンラインなりということで個別に調整ができますよという簡潔な案を示そうかなというふうに思います。

○部会長（福沢美由紀君） なるほど。例えば2や3や4やという、これとこれとこれがございますということではなく、個別でも対応してまいりますということだけを言う中で、サロンとかをしておったらだんだんとそういうのも、先生方も違いますしね、学校によって、決まってくるのかな、そういうことでいいですか。

今岡副部会長。

○副部会長（今岡翔平君） では、説明会の中で行うグループワークについては、同じようにサロン形式、付箋だったりホワイトボードを使うという形式で、マニュアルというか、シナリオをつくらせていただいて、まずは私と部会長を中心に関でもやってみてという形で、特に初めてやっていただく議員さんにも慣れていただくというような方向でよろしいですかね。

○部会長（福沢美由紀君） それでよろしいですか。

（「はい」の声あり）

○部会長（福沢美由紀君） 関がスタートですんで、頑張ってみましょう。

事務局、特に何か懸念材料とかありますか。大丈夫ですかね。

素材というか、必要物品については、またちょっと学校へ聞いたりとか、いろいろお願ひしたいと思います。

そうしたら、これについてはこれでいいね。

そうしたら、先ほど短縮授業ということで、例えばこの部分はもっとはしょらなあかんかなとか、いろいろ懸念はありますが、一応さくさくと原稿どおり読んでもらったら18分から20分ぐらいで本当は終わるはずなんだということなんで、ワークショップを10分取ったとしても30分やし、ま

まだちょっと何とかいける可能性はあるということで、特にここをはしょってという話はしなくてもいいですかね、じゃあ。

(「はい」の声あり)

○部会長（福沢美由紀君） それでは、ないようでしたら、このように提案して調整していきます。

次に、4. その他の項ですけれども、一遍、ちょっと学校説明会をしているところの動画も調整していただきましたので、それを見てからその他へ行きましょうかね、やっぱり。一旦動画を見てみてもいいですかね。

(「休憩」の声あり)

○部会長（福沢美由紀君） 休憩に入ってから、休憩中に見ていただきましょうか。

じゃあ、休憩とさせていただきます。

午後2時20分 休憩

午後2時28分 再開

○部会長（福沢美由紀君） それでは、休憩を閉じまして、会議を再開します。

休憩時間中に昨年の学校説明会の様子をご覧いただきましたが、特にそれを見られて何か課題があるとか。何かない、大丈夫ですか。大体分かっていただいて、いいですかね、進んでいけそうですね。

(「はい」の声あり)

○部会長（福沢美由紀君） それでは、次回の開催日程でございますけれども、この通告書作成の関わり方とかスケジュール等について、学校と協議した上で調整して、6月定例会中ではありますが、検討部会を開催してご協議いただきたいのです。

ご予定をお願いしたいんですが、次回の開催日程のご提案ですが、6月20日金曜日の1時から。6月20日金曜日というのはどういう日かというと、予算決算委員会があって、議運がある日、午前中に。その午後が空いておりますので、その時間を使ってさせていただきたいんですけど、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

○部会長（福沢美由紀君） それでは、そのようにさせていただきたいと思います。

これらのこと全部きっちり決めたら、また推進会議にかけないといけないこともあるかと思いますので、進めていきたいと思います。

本日の案件は以上でございますが、ほかに何かありませんか。

(「なし」の声あり)

○部会長（福沢美由紀君） ないようでしたら、以上で議会改革推進会議検討部会を閉会いたします。いろいろありがとうございました。

午後2時30分 閉会

この会議録は正当であることを認め、ここに署名する。

令和 7 年 5 月 19 日

議会改革推進会議検討部会長 福沢 美由紀